

# JHA(Job Hazard Analysis)の取組み

## ①評価シートを用いて、作業ステップごとにリスク評価を行い、安全対策を実施する。(以下は手順の抜粋)

### 5-1 作業ステップごとの記入

作業者が行う作業を、作業手順書などを参考にして作業ステップごとに記入する。また、装置の搬入作業（車両からの積み下ろし等）や撤収作業も含めてJHAを行う必要がある場合もある。また、その作業が非定常作業である場合には、定常作業よりもリスクが高くなる可能性があることを認識すること。

### 5-2 作業種類毎の実施

作業種類毎にできるだけ具体的な作業内容を記入する。

### 5-3 リスク評価

その作業範囲において、どのような影響が想定されるか（例えば感電や骨折など）を「想定影響」に記入する。作業の結果として、副次的に新たなリスクが発生したり、別の業務にリスクが発生したりする場合もあるので、それらも記入する。また、その危険源の内容を具体的に「危険源」に記入する。その危険源の内容から「重大性」「発生頻度」を以下の表から妥当と考えられる点数を選び、その積を「リスクレベル」に記入する。

次にリスクランクよりA～Dを選択し、追加で安全（環境）方策が必要か否かを「方策の要・不」に記入する。（リスクランクがAもしくはBの場合は、追加で安全（環境）方策が必須）

# JHA(Job Hazard Analysis)の取組み

②安全対策実施後は、再評価を行い、受容可能なリスクまで低減させる。(以下は評価シートの記入例)

## < JHA (Job Hazard Analysis) 評価シート >

仕向地			
設備名称			
RCA用D/C、洗浄用D/C、エッチング用D/C、無機エッチング洗浄機、異方性エッチング用WS、リン酸エッチング用D/C、レジスト剥離機、ハンダ用D/C①、ハンダ用D/C②、酸アルカリ用D/C、有機用D/C			
代表図番			
工事No			
区分	検収項目確認	実施日	~2015/03/16

  

危険を感じる頻度＝ケガの可能性						リスクランク区分	
危険を感じる頻度 (作業者の頻度ではない) ケガの可能性 (回避できるスペース等、周辺環境を考慮した物)	日常レベル	数月レベル	数年レベル	数十年レベル	数十年レベル	●Aランク 20~30 許容できない	●Cランク 6~10 問題が多少ある
	可能性が高い	可能性がある	可能性が低い	ほとんどない	完全に等しい	直ちに中止、又は構造変更、あるいは作業方法の改善が必要。	現状技術で実施できるものは、警告情報を伝達し、教育指導を行う。
	5	4	3	2	1	●Bランク 11~19 重要な問題あり	●Dランク 1~5 許容できる
重大災害 (機外流出:法規抵触)	6	30	24	18	12	6	問題回避するため、構造見直し、あるいは作業方法の改善が必要。現状技術レベルで回避できない場合は安全管理者の承諾を得て警告情報を伝達し、重要管理対象とする。
ケガの大きさ	軽傷 (機外流出:搭載なし)	4	20	16	12	8	4
	軽傷 (他部署に影響)	3	15	12	9	6	3
	赤トン災害 (機内設備に影響)	2	10	8	6	4	2
	ヒヤリハット (自部署に影響)	1	5	4	3	2	1

  

作成年月日	2015/2/18
リスクアセスメント実施者	乾谷・石倉・山
< レベル >	
【危険を感じる頻度＝ケガの可能性】 ・日常レベル(可能性が高い) ・かなり注意力を高めていても ・数月レベル(可能性がある) ・通常の注意力で災害につながる ・数年レベル(可能性が低い) ・うっかりしていると災害になる ・数十年レベル(ほとんどない) ・通常の状態で災害にならない	

  

No.	定常 非定常 異常	作業の種類	動作/作業		リスク評価						安全方策	安全方策の再評価						
			No.	内容	条件	危険源の同定	リスク内容	ケガの大きさ	頻度可能性	リスクレベル		ランク	方策の要・不	ケガの大きさ	頻度可能性	リスクレベル	ランク	方策の要・不
1	非定常	装置本体の確認	1	寸法確認	装置の組み立て作業が完了している	怪我	寸法確認の際に、装置・メジャーで怪我をする。	1	2	2	D	不要						
			2	機器類の配置及び構レイアウト等の確認		怪我	装置内の機器寸法確認時に、体をぶつける。	1	3	3	D	不要						
			3	傷、破損等がないか確認		怪我	装置内の確認を実施する際に、装置に体をぶつける。	1	4	4	D	不要						
			4	扉がスムーズに開閉できるか確認		怪我	扉がスムーズに開閉できないと、開閉の度に力を入れてしまい、指を挟む。	2	3	9	C	不要	スムーズでなければ修正を要請する。	2	2	4	D	不要
2			1	Airラインにて、漏れ及び雑手の締めがないか確認		怪我	締めがある場合、雑手が外れ配管が暴れて、作業者が怪我をする。	3	3	9	C	不要	全てチェックし、締めがあれば、修繕し、再度確認を行う	3	2	6	C	不要

# JHA(Job Hazard Analysis)の取組み

## <JHAによる活動成果>

(1)最先端技術センターの設備移設に伴い、初めてJHAを導入し、非定常時におけるリスクが大幅に低減された。  
JHA運用方法の確立と、確実なリスクの低減に貢献した。

【導入・確立】

(2)びわこ工場移転に際し、工事関連の分科会で、JHA活動を運用し、大規模な移転にも関わらず、「労働災害0件」の成果を得ることが出来た。

【運用】